

十三健康かわら版

No.7

2011年6月発行：十三市民病院 広報委員会

□ 病院長に就任して

平成23年4月1日大阪市立十三市民病院長に就任しました大川 清孝です。大阪市の市民病院に勤務したのは平成元年10月ですが当院へは初めて赴任いたしました。

当院は昭和24年に診療所としてスタートし、すぐに病院となりました。昭和34年には、阪急十三駅の東側に旧病院が増改築されオープンしました。その後、平成14年に今の場所に移り、病院も新築されて立派なハードをもつ病院となりました。その間、淀川区を中心とした地域の中核病院として地域医療に貢献してまいりました。

医療ニーズは時代により変遷し、市民病院に求められるものも変化しています。しかし、公立病院として質の高い、安心安全で地域に密着した医療を行うことは、時代と関係なく当病院が大切にしてきたことです。

まだまだ問題があることは認識しております。

今一度職員一同当院の理念に立ち返って、ソフト面の充実を図るように努力してまいりたいと考えています。

ここは改善すべきである、不愉快な思いをした、などのご意見があるかと思えます。それを遠慮なく「みなさまの声」などでお聞かせいただければ、真摯に受け止め当院がよくなるように生かしたいと考えています。全職員とともに当院が発展するよう努力する所存でございますのでよろしくお願いいたします。



十三市民病院長 大川 清孝

□ 新看護部長より ~やさしさのある心温かい看護をめざします~

十三市民病院看護部長に就任しました小林清美です。十三市民病院は、私が看護師になって勤務した最初の病院です。もちろん35年も前のことで今の病院ではなく、旧病院のほうでしたが、このたび、赴任が決まった時、そこで勤務した10年間の思い出されとても懐かしい気持ちでいっぱいです。

十三市民病院は、市民に信頼され地域に貢献する病院を目指し続けています。看護職員一人ひとりが、市民の医療ニーズに応え信頼される質の高い看護を提供するとともに、地域の人々とのふれあいを大切にやさしさのある心温かい看護を心がけています。これからも、患者様やご家族の声に耳を傾け、安全を第一に考え、安心・信頼していただける看護を実践してまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



十三市民病院看護部長 小林 清美

□「下痢をしたら考えること」

いきいき健康セミナー（平成23年4月18日開催）より

下痢とは糞便内の水分量が多く（60～80％）なり、本来の固形状の形態を失い、水様（90％以上）ないし泥状（80～90％）となった状態をいいます。一般に排便回数の増加を伴います。排便回数が多くても便の性状が正常な場合は下痢とは呼びません。

下痢はその発症の経過によって、急性の経過をとる急性下痢と長期（2～3週間以上）持続する慢性下痢に分類されます。日常よくみられる下痢の大部分は急性下痢です。

急性下痢を起こす病気は感染性のものと非感染性のものに分類されます。感染性の原因として細菌感染・ウイルス感染・寄生虫感染などがあげられます。非感染性の原因として単純性下痢・アレルギー・薬剤性・神経性・虚血性腸炎などがあげられます。

慢性下痢の原因もやはり感染性のものと非感染性のものにと分類され、感染性の原因として急性感染症より移行した細菌性下痢や寄生虫感染によるものがあげられ、非感染性の原因として潰瘍性大腸炎やクローン病といった非特異性腸炎といったものや癌などの腫瘍によるもの、過敏性腸炎というストレスが原因で腸管の運動異常をきたすものなど多彩な原因があげられます。

下痢の患者さんを診察する場合、下痢発現の状態、排便の回数、便の性状（血液・膿の混入の有無）、下痢以外の他症状、誘因と思われるものを聴取し、急性か慢性か、感染性のものか非感染性のものかを鑑別していきます。腹部の圧痛・抵抗、腫瘤、グル音の有無、全身所見（発熱、発疹、リンパ節腫大）の有無に注意し、糞便の検査、X線検査、内視鏡検査および血液・生化学・検尿などの検査計画をたてていきます。

下痢の治療は脱水症状に対する水分と電解質の補正と原因病原体および成因に対する特異的治療を行いません。特に感染性腸炎に対して強力な下痢止めを使うことは、症状・全身状態を悪化させることがあり、注意が必要です。

栄養部長・消化器内科副部長 青木哲哉



ハーモニカコンサート好評でした！！

4月28日(木)16時より「ハーモニカコンサート」を開催しました。
当院をご利用いただいている皆さまに「少しでも癒しの時間をもっといただけたら」と始めた院内コンサートも10回目を迎えました。



コンサート風景

参加いただいた皆さまも一緒に歌い、楽しいひと時を過ごすことができました。また、アンコールの「六甲おろし」も大好評でした。

今後、ジャズや演歌などのコンサートも計画していますので、まだ参加いただけていない皆さまにも、是非ご参加いただきたいと思えます。事前にポスター等でご案内させていただきます。どうぞお楽しみに！！

今回は、ハーモニカ演奏グループ「そらまめ」のみなさんにご協力をいただきました。「そらまめ」さんは、尼崎市を拠点に、ボランティアで活動し、7年の実績をお持ちのグループです。「浜辺の歌」「五番街のマリーへ」「津軽平野」「ラ・クンパルシータ」などさまざまなジャンルの曲を演奏していただきました。



「そらまめ」のみなさん

「皆さまの声」から



当院では、「皆さまの声」専用箱を1階外来の診察申込書記載台に設置し、利用者の皆様のご意見やご感想をいただいています。

それらを患者サービスの向上や病院運営に反映し、より良い病院となるように努力してまいります。

今回は、皆さまから寄せられたご意見の一例をご紹介します。

ご意見 .「ヘモグロビンA1Cの検査結果が採血した当日に出ないため、受診日前に来院しなければならない。不便なので改善してほしい。」(平成23年1月24日回収分)

回答 .ご不便をおかけしております。当院では、ヘモグロビンA1C検査を総合医療センターに送り集約して検査測定を行っており、検査結果が当日の診察に間に合わない状況にあります。現在、ヘモグロビンA1C検査測定器の早期導入に向けて準備を進めておりますので、今しばらくお待ちくださいますようお願いいたします。

★患者さんへのお知らせ★

肝臓病教室のお知らせ

肝臓病ってどんな病気？肝臓病の食事ってどうすればいいの？肝臓病とうまく付き合っていくには、どうしたらいいの？ など、皆さんにわかりやすくお話しています。

日 時：平成23年6月23日（木）午後2時～午後4時

場 所：十三市民病院 9階 スカイルーム

内 容：肝臓病の基礎知識、メタボと肝臓病

リハビリのお話と運動、肝臓病のお食事について

申込方法：外来受診時に主治医に申し出て頂くか、

かかりつけの開業医の先生を通じて、

当院の「地域医療連携室」で予約を承ります。

ご家族の方も一緒にお気軽にご参加ください！！



副 院 長 岡 博子
消化器内科部長 倉井 修

いきいき健康セミナーのお知らせ

当院では、2ヶ月に1回「健康と病気」に関する分かりやすい講演会を行っています。どなたでもお気軽にご参加ください。

テーマ：当院でも診療しています！『睡眠時無呼吸症候群について』

講 師：呼吸器内科部長 白石 訓

日 時：平成23年6月29日（水）午後2時～午後3時

場 所：十三市民病院 2階 集団指導室

問合せ先：医療連携担当 電話06-6150-8000

参加は無料です。当日参加もOKです！！



院内コンサートのお知らせ

当院では、6月・7月に2ヶ月連続で、サマージャズコンサートを開催いたします。ジャズ・ポップスから歌謡曲・童謡までカルテットとビッグバンドでお楽しみください！

日 時：平成23年6月9日（木）午後4時～

演奏者：『NSK 福井徹カルテット』

日 時：平成23年7月14日（木）午後4時～

演奏者：『アグリー ダックリングス』

場 所：両日とも、十三市民病院1階 整形外科待合前にて

参加費：無料

ご家族の方も一緒にぜひ聴きにいらして下さい！



